放送大学浜松同窓会

風船かずら

（花ことば・ふくらむ夢）ハートのタネ

第 4 号

発行：放送大学浜松同窓会

編集：浜松事務局

発行責任者：仲塚とし子

発行：平成 20 年 10 月 20 日

同窓会連合会ホームページ http://uair-dosokairengo.net/

浜松同窓会ホームページ http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~hdosokai/

「2 年目の浜松同窓会について」

seeds of heart

浜松同窓会会長　仲塚とし子

放送大学では、創立 26 周年を向かえ、四半世紀の節目の年に「放送大学アクションプラン２００８」を策定し、新たな段階に進もうとしています。アクションプランには、第 9 プランの「全国的な同窓会の組織の確立があげられ、「放送大学の様々な活動を円滑に推進するためにも、大学同窓会との連携をより深め、同窓会の全国組織化を、大学として全面的に支援する。このために同窓会のための連絡拠点を整備し、教員及び事務側の体制を整える。」というものです。

各地のセンターごとの同窓会だけでは、放送大学の本体と直接結びつくものではなく、それを 1 つに結びつけているのが「放送大学同窓会連合会」の存在です。

放送大学連合会　http://uair-dosokairengo.net/　は平成 21 年に同窓会 20 周年を向かえ、20 周年記念行事や放送大学と全国同窓会の情報交換会を予定しています。いままで首都圏で行われていた同窓会連合会通常総会も平成 20 年度より、全国の同窓会へ出席の呼びかけをしています。

このような同窓会の全国組織化のなかで、静岡県には同窓会組織が長い間なかったのですが、平成 20 年 2 月に 19 年 3 月の大学卒業生とサークル「ネット・スタディー」のメンバー達によって、浜松同窓会　http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~hdosokai/　が立ち上げられました。21 年度には、静岡学習センター卒業生達が卒業生に同窓会設立を呼びかけ、静岡同窓会が設立されました。

浜松同窓会では、定例会を開催し、会のあり方や取り組みについて意見交換会を行っています。今後浜松サテライト卒業生達に、はがきで同窓会入会の呼びかけを行っていきますので、どのようなビジョンを持ち続けたらよいのかなど、感想をお寄せください。

会報についても、より一層内容の充実したものをお知らせしたいと思います。広報物によって情報を卒業生や会員にお届けし、皆さんの意見や関心を集約し、同窓会をよりいっそう有意義な活動とし、社会に貢献できる組織にすることが求められているのではないでしょうか。

新入会員のご案内

下記の 4 名の方が浜松同窓会に入会されました

氏名	住所	プログラム
小島　邦弘	浜松市	文化科学
岡本　康子	浜松市	環境システム科学
古橋　達也	浜松市	総合文化
萩原　利行	掛川市	環境システム科学

「放送大学で学んで　～面接授業の思い出～」

鈴木　眞喜子

私が放送大学に入学したのは 2002 年の１学期でした。学生時代以来、２０年以上勉強から離れていたので、続けることができるだろうかという不安がありましたが、幸い放送大学は科目履修生という１科目からでも学ぶことができるという制度があるので、卒業のことは考えずに気楽に入学することにしました。生活と福祉関連の２科目の履修からはじめました。

入学した年の１学期に行われた面接授業にひとつの空席ができたことを知り、受講してみたかった授業なので、申し込んだところ７倍の希望者の中から抽選で受けることができたので、気をよくして、全科履修生として卒業をめざすことにしました。

家でテキストを読んで、テープを聞いて、試験を受けるという授業も結構楽しかったのですが、なんといっても面接授業は、難しいながらも楽しいものでした。必須科目の英語は、放送授業だけで短期間に６単位を取るのは自分には難しいと思い、面接授業を受けることにしました。しかし、面接授業もとても難しいものでした。長い文章を読んだり、文章を書いたり、話したりと、授業によっていろいろなことをこなさなくてはいけません。基礎からの英文法の講義はとても分かりやすくためになると思いました。

面接授業の中で、ほんとうに楽しかった講義は、楽器の歴史でした。楽器のまち、浜松市にある楽器博物館にある研修室での講義は、いろいろな楽器をスライドによって説明していただいた後、実際に楽器博物館に行って本物を見せていただけるという興味深い授業でした。学生の中には楽器メーカーにお勤めの方もいて、ピアノの仕組みなど、詳しく説明していただけてほんとうに楽しかったです。現在、少しずつ愛好家が増えてきた、テルミンという楽器も講義の中で見せていただきました。

また、全国的にも有名な「浜松祭りの歴史」という授業も楽しい授業でした。地元のお祭の歴史の講義を聞くのも楽しいのですが、学生の体験や思いを聞くのも興味がありました。面接授業の中には、自分では興味があって登録をしたのに、レベルが高くついてゆけない授業もありました。しかし、２０単位の面接授業それぞれに卒業してみればよい想い出になっています。

何回か授業を受けるうちに、いろいろな人と知り合うこともできました。年齢、職業、そして、他の地方から来ている方もいらっしゃいました。面接授業を受けて、放送大学ではさまざまな人たちが勉強しているのだということを感じました。

同窓会連合会から

連合会会長　　盛岡　加代

今年度は同窓会設立 20 周年にあたり、11 月 28 日(土)に千葉本部で記念行事を開催致します。これと同時に放送大学と全国同窓会の情報交換会を予定しております。さらに、翌 29 日(日)は連合会議を開催し、全国の同窓会間を繋ぐ情報交換と対話の場にしたいと思っています。

また、平成 22 年 3 月 27 日(土)には同窓会連合会の総力をあげて、卒業終了祝賀会をホテルニューオータニで開催する予定です。

同窓会活動を通して全国の卒業生が手を繋ぎ、やがて放送大学ならではの社会貢献ができることを夢見ています。

「 同窓会・懇親ウォーキングに参加して」

大石　純子

5 月 24 日（日）今にも降り出しそうな空を見上げつつ、バスで浜松駅に 9 時に着いた頃、雨が降り出し、次第に激しく大降りになってきた。静岡同窓会の初めての懇親ウォーキングなので楽しみにし、前もってお得な切符が買ってあり、雨天・小雨中止となるので心配しつつも、早く着きすぎたため、他の人を待たずに、一人汽車に乗り興津駅へ、駅には合羽を着た人達が十数名集まっていた。浜松・静岡の人達も見えたが、薩埵峠展望台に行くには、足元も悪いし、見晴らしも望めないので断念し、由比駅へ汽車で移動した。

寺尾の街道を西へ、小降りになってきたが傘をさして、周りには甘夏や枇杷の木が多く、軒先に並べて売っている家も何軒かあった。格子のある古い家並みが続く寺尾村の名主だった、「小池邸」を見学して、どっしりとした風格のある屋敷でお庭も立派だった。

桜海老のお食事処は昼近くなので行列ができ、混んでいた。

「望嶽亭」は老婦人が案内と、とても熱心な説明をしてくださり、山岡鉄舟が助けを求めてきた時の緊迫した様子に、皆さん固唾を呑んで聞き入っていた。床にある隠し梯子も見せていただき、尋ねた甲斐があった。

東に戻り由比駅越えて由比漁港で晴れ間が見えて暑くなり、日傘代わりに雨傘差して、行列に並んで遅い昼食、桜海老の掻揚げはおいしかった。更に東に行き「東海道広重美術館」へ、出口で解散。由比駅へ戻り浜松へ帰着、充実していたが疲れた。

「放送大学に学んで」

小倉　康弘

私が放送大学に入学したのは、定年退職した平成１１年４月でした。再就職をしましたので仕事と学業を並行して進めました。初めは JR で通勤しましたので、列車の中でテキストを読んだり、昼休みや仕事の切れ目を利用して勉強したりしました。自宅では、夜間、理解しやすいようにノートを付けて進めました。

仕事は役所勤めでしたが、特別に学力が不足で仕事に困ったことはありませんでした。「学卒」で就職した訳では無いので、初めは何となく「大卒」の職員と差別的扱いのようなものを感じていました。もちろん、こちらは田舎育ちで、要領も悪く、人付き合いも不得手と来ていますから、使う方も勝手が悪かったことでしょう。そういう訳で、スタートからコンプレックスが有りましたので、仕事は丁寧に真剣に取り組んで来たつもりです。また、漠然と「大学教育」に対する「憧れ」のようなものがあって、何時か大学教育を受けてみたい・・・と考えていましたので退職と同時に入学し、平成 17 年３月卒業しました。

放送大学の授業は当初想像したよりも辛くはなく、実に楽しく学ばせてもらいました。途中（入学して丸３年たった頃)、体調を壊したこともありましたが、ペースを落として切り抜けました。

放送大学の授業は、その名前の如くで、授業は電波で送られて来るので、これを録画・録音が可能である・・・選んだ全ての科目をビデオに収めて、自分の都合の良い時間に繰り返し理解できるまで学習する・・・　このスタイルは、私どもの若い時には不可能なことです。まさに良き時代に巡り合わせたものです。

また、６０歳で始めたことが大変良かったと思っています。それは、２０歳で就職し 60 歳まで働いたこと・・・その事の中に学習に耐えられる、雑然とではあるが経験や知識が膨大に頭の中に存在する・・・という事です。そのような経験や知識は、それまでは「学問とは何の関係も無い」と思っていた訳ですが、教授や准教授の講義に接するに従って、いろいろな事柄について自分の知識や経験と関連がある事が分かってくるにつれて、講義が理解し易くなっていきました。

言ってみれば、過去に社会（仕事、お客さん、先輩、同僚、部下、友人、家族等）から影響を受けて自分も鍛えられてきたし、また蓄えられてきた頭の中にある、知識・経験等の雑学の横糸が先生方の講義の縦糸により、学問としてオーソライズされて、整理整頓され、知識の「引き出し」に保管された。・・・こんな感じがしています。

あとは、この「知の引き出し」から、何を引き出して来て、豊かな人生を築くかが本人の責任でしょうか。学ぶ環境を与えてくれた家族、職場、自分自身の健康に感謝したいと思います。平成１７年２学期にコースを変えて再入学し、７月の期末試験で２回目の卒業を目指しています。

浜松同窓会では 4 月に浜松城公園で花見会を予定しています。
多くの方の参加をお待ちしています。

「日本語指導者」として

2005 年 3 月　卒業生　生活と福祉専攻　後藤淑子

2005 年 3 月　私は放送大学卒業という長年の夢を実現しました、本当に感激でした。

卒業後も放送大学に在籍し英語クラブの代表を続けていましたが、4 年ほどたちこの度在籍期間満了をもってこの役目も終わることになりました。

この間、文部科学省の提唱する「外国人への日本語指導者養成講座」（2007 年 9 月スタート）の募集に遭遇し、応募する事にしたのです。幸運にも 2 分の 1 の合格率の中でも入学を許されました（浜松学院大学にて）。放送大学卒業というアカデミックなバックグラウンドも少なからず入学選考の助けとなったと私は信じています。

2008 年 8 月この講座も無事満了し、晴れて日本語指導者としてスタートしました。

大学を卒業するという事はそれだけで終わりになるのではなく、次ぎへのステップへの自信となるという事を身をもって体験しました。

現在日系ブラジル人の子供たち、その他の外国人の大人の学習者への日本語指導に力をそそいでいる所です。大学の先生、私の仲間たち、まじめに勉強に取り組む外国人たち、周りには私の心の支えとなるたくさんの人達がいてくれ、本当に感謝しています。

「遠州及びその周辺地域の民俗信仰」

小島　邦弘

35年ほど勤めた会社を定年退職後、歴史の基礎を学ぶため、学部の科目履修生として、5年程過ごしました。2年前、放送大学院に入学し、今年3月修士課程を修了し、同窓会の入会資格を得て早速入会しました。現在は学部の科目履修生に戻っています。

目下のテーマは遠州を中心とする民俗信仰です。終論は白山信仰中心ですが、今後は他の信仰及び主題の修験及び民間宗教者が担った医療問題に進みたいと思っています。

民俗信仰及び他の宗教研究に関心を持っておられる方で共同研究・勉強をする同志を募っております。文末の住所まで連絡をお待ちしています。

私が現在関心を持って進めている仕事の一つを紹介させて頂きます。研究題目は「遠州及びその周辺地域の民俗信仰」です。大枠は布教を職業としない民間人が、伝統的に守り伝えてきた信仰はいかなる心を持っているかです。そこに現れる姿は正統的な宗教の研究で語られる分類、仏教で言えば浄土真宗西本願寺派＊＊山＋＋寺、高野山真言宗＊＊派：：山＋＋寺であり、神道では神社本庁伊勢神宮末＋＋神社などと括れない江戸時代以来続く神仏習合の姿です。

宗教界は明治維新以後神仏分離で、江戸時代とずいぶん姿を変えており、多くの寺社が言う伝統は実は古くさかのぼっても、享保以降の物であり、かなりの部分は明治以降に作られた「近代的な伝統」であると、研究が進むにつれて次第に分かってきました。

明治以前の宗教は、基本的に神仏習合である事は皆さんご存じでしょうが、私の見解は「明治以前の庶民信仰」は集合を一歩進め諸神・諸仏が境も見えないほど「融合一体化した信仰」であると思います。ただし、境界を強調する考えも根強くあります。

具体的な研究の枠はこの地域の庶民信仰を　①世襲家系組合で継承される祈祷性の強い信仰　②大寺院の門徒とそれを取り巻く人々が支える芸能色の強い民俗信仰　③大河・街道沿いの、かつて旅の宗教者が地域に住み着いて広めた多種多様な宗教の融合した信仰の形を継承したタイプに別け、考えています。

研究趣意を、放送大学の皆さんに少しでも知って頂き、過疎問題を抱える地域に住む人々が守り伝えた世襲の神仏信仰習俗が危機状況にある今日、地域の人々の強い郷土愛と郷土振興の思いに応えたいとの願いに、拙文がわずかでも役立てば幸いです。

浜松市南区恩地町237－2　芳川ハイツ2－103　　小島　邦弘
TEL・FAX　053-426-2049　kojima-y@ck.tnc.ne.jp

学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を
心から歓迎しています。

放送大学本部	TEL　043-276-5111(代)
募集要項請求フリーダイヤル	FAX　0120-864-600
放送大学ホームページ	http://www.u-air.ac.jp/

「 国民文化祭の演劇に参加して」

安松 和男

国民文化祭とは？　全国各地で行われているさまざまな文化・芸術活動を全国的な規模で発表し、それらを鑑賞する場となるもので、全国から多くの「文化」や「人」が集まり、交流し、さまざまな出会いが楽しめる国内最大の文化イベント。

昭和 61 年に東京都で第 1 回が開催されて以降、平成 21 年に第 24 回大会を、この静岡県で迎えます。静岡県浜松市にある三方原台地で行われた、徳川家康対武田信玄の合戦である「三方ヶ原の戦い・三方原合戦」をテーマに、第 24 回国民文化祭・しずおか 2009 舞台芸術の祭典　市民参加 500 人ステージ「三方原合戦!!!」を、500 人の市民と創り上げ、浜松アリーナにて上演します。

開催日時
2009 年 10 月 31 日（土）
【昼の部】　〔開場〕12：30　〔開演〕13：30　〔終演〕16：00
【夜の部】　〔開場〕17：30　〔開演〕18：30　〔終演〕21：00

私が、インターネットの新聞記事の中に、このような国民文化祭の演劇部門(三方原合戦)の記事を見たのは、昨年の 7 月のことでした。そして、記事の最後に演劇の参加者募集の案内もありました。その、案内を見て、もともと、三方原の合戦については、浜松の歴史上のことなので、大変興味があったのです。はじめは、読み飛ばそうと思っていたのですが、次第に端役でもいいから甲冑(かっちゅう)を着てみたいという思いが強くなりました。しかし、私のような視覚障害者でも受け入れてもらえるものか少し心配でしたが、記事にあった連絡先に問い合わせ早速申し込んだところ、おかげさまでオーディションに、無事にパスすることができました。

練習は、毎週土曜日の午後 7 時から、午後 10 時まで、領家町のスペースコアという所で行われます。その、練習場には毎週、ガイドヘルパーさんと 30 分歩いて参加しています。

学生時代に学芸会で劇に出演したことはありましたが、本格的な演劇を経験したことがない私にとって、練習は大変ではありましたが物珍しいことばかりで、苦痛なことは何もなかったのです。むしろ楽しいといった方がいいくらいでした。

俳優に選ばれた人は子役を除けば、サラリーマンから、高齢の人までおり、なかには、市会議員と言う異色の方もおられます。演劇の経験では相当芝居の経験者も含まれているようですが私のような全くの素人も含まれているようでした。

昨年 11 月から始まった練習もはじめは、基本練習で立ったり座ったり歩き方、ポーズなど、まるで体操をしているような練習が続きました。そして、次第に合戦シーンに必要な楯の演舞練習も加わって来た頃、配役が決められました。私の配役は、太夫、語りの役と決まりました。私が、刀を振り回しては、座頭市に、なってしまうというところであろうと勝手に想像しましたが、まかされた、太夫、語りの役は、このしばいの進行役で大変重要な役どころです。

作家、狐野氏の脚本は 400 年後の未来の子供が現代に現れ、400 年前の時代にさかのぼり家康の生い立ちと、三方原の戦いを覗きに行くというストーリーでファンタジーな音楽劇です。この演劇の特色は、声だけで出演する声優と、芝居をする俳優に別れているところにあります。俳優は、声

を発せず、声優の声にあわせて動く事になっています。つまり、パントマイムになっているのです。ただ、私だけ例外で、声も演技も同一になっています。

また、演劇の場面場面で、やらまいか、よさこい踊り、エイサー太鼓、日舞、演武遠州大念仏、合戦シーンなどには、ギャラクシーアクションクラブの演武も、加わり壮大な物となっています。

私の配役、太夫、語りは、はじめから終わりまで舞台に出ている役柄です。演出家の松尾知子先生は演劇は、ビジュアル時間芸術だと言われる。私の配役の場合、語り部なので他の演技者に比べ大変動きが少ない役どころとなっていのでする。せいぜい立ったり座ったりと、扇で場面を指し示す程度の動きしか無いのです。しかし、先生が言われるには、「演技は動かない、たとえ、止まっているときであっても黄金律にも匹敵する、凛としたポーズから、お客様を感動させることができるのです。動けない役、動けない中で動きをいかに凝縮するかが動きに意味を付けるかが重要である」と諭してくださいます。演劇の経験の無い私には、とても難しく感じる言葉ですが、なんとなく理解できる気がします。

今回の演劇にはスタッフを含めると、総勢 500 名にもなると聞いていますが、舞台に立てる俳優は、陰で働くスタッフの代表だと思うと身が引き締まります。

最近は、個人指導もあり、練習は、週 2 回と増えています。甲冑を着て、勇ましく動き回ることはできませんが、残り一月となった現在、この 1 年近く練習してきたものを再確認してアリーナの舞台を感動あるものにしたいと願っています。

定例会欠席者からのお便り

◆いつもご丁寧な連絡を有難うございます。定例会欠席します。申し訳ありません。【黒田浩平】

◆いつもみなさんのお世話をありがとうございます。平日は病院勤務のため休みがとれません。休日は静岡栄養士会の協議会長をしているので、会議や研究会に費やされます。また、現在浜松医大の社会人博士課程の学生でもあるので、時間が取れず参加できません。同窓会には可能な限り協力したいとの考えを持っていますが、仕事との調整があり、申し訳ありません。今後も御連絡をお待ち申し上げております。折角ご連絡いただいたのに恐縮です。【岡本康子】

◆お世話になっています。当日は私の農業研修の「営農塾」が入っていました。とても残念ですが欠席させてください。次の機会はきっと出られると思います。よろしくお願いします。【後藤淑子】

◆ご連絡ありがとうございます。大変申し訳ありませんが、参加できそうにありません。同窓会には可能な限り協力したいとの考えを持っていますが、仕事との調整があり、申し訳ありません。今後も、連絡をお待ち申し上げています。【古橋達也】

◆お世話になります。定例会開催へのご準備、お疲れさまです。大変機密にご準備されていること感心いたしております。同じ大学の卒業生として、皆さんと色々なお話がしたいと思っているのですが、日程調整がうまくいきません。いずれは、同窓会の発展のために寄与させていただきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。【萩原利行】

◆地区の公民館で「ハーモニカの会」があり、欠席させていただきます。【大石純子】

◆仕事がありますが、時間的に調整ができたら出席したいと思います。【安松和男】

新会員募集

浜松同窓会では、卒業生の入会をお待ちしています。

同窓会に興味のある方は、ぜひ、浜松サテライトスペースにご一報ください。